

同窓会は鳥羽小を応援しています

体育館・特別教室棟
新校舎全景



〔体育館〕



〔ランチルーム〕



〔教室〕



〔特別教室〕

新校舎・特別教室棟
体育館・ランチルーム

校舎改築・体育館・特別教室棟改修工事完成



平成23年3月
第20号
鳥羽小学校同窓会
印刷：(有)平田印刷



新入会員紹介

〔平成22年度卒業生〕





ご挨拶

同窓会長 松宮 保彦
(昭和28年度卒)

鳥羽小学校同窓会会員の皆様には、平成二十三年の新春をご家族お揃いで迎えられたこととお慶び申し上げます。

常日頃、当同窓会の運営に對しまして、絶大なるご理解とご協力をいただき誠に有難うございます。

私、昨年四月から、前会長福谷洋氏の推挙を受け、理事会において選任されまして、自分の浅学非才をも顧みず、伝統ある同窓会長の職をお引受させていただきました。誠に微力ではありますが、本会の目的であります「会員相互の親睦と連絡・母校の教育振興への寄与」を念頭に置きつつ努めて参りたいと考えておりますので、何卒よろしくご指導ご支援の程お願い申し上げます。

ふと、我が母校を振り返ってみますと、終戦後間もなしの在学でしたので、物資不足でもあり、儉約を余儀無くされた時代でした。私達もそんな生活が当たり前であつたような気がします。校舎と

云えば、老朽化した木造であり、講堂（体育館）を含めて、コの字型の校舎に囲まれるような形で校庭が前方に広がっていましたので、百メートルのグラウンドがやつと確保できる程の狭いものでした。下校後や休日には田の畔、畑、土手そして山々を走りまくって楽しく遊んだ記憶が蘇ってきます。

以来、今日まで約六十年の歳月が流れました。我が国の社会経済は目覚ましい発展を遂げてきましたが、その反動が人の心の欲望を無限に満たされないものにして来たのではないかと思うのです。

幸いにして、東西小高い山々に囲まれた谷間には一本の川が流れる、その流域には小さな田園が南北に広がる、こんな牧歌的な風情のある校下で育まれてゆく子ども達は、本当に幸せだと思います。将来、心豊かな同窓生に成長してくれるものと願ってやみません。

この度、昨年度より鳥羽小学校改築期成同盟会（会長 飛永新一郎鳥羽を考える会長）が取り組ん

でまいりました体育館の耐震工事並びに校舎等の改築工事が町長様はじめ町の関係者、地元関係者、工事関係者、地区住民の皆さんそして、同窓会会員の皆様のご支援、ご協力のお蔭をもって、素晴らしい教育的環境を備えた校舎として完成致しました。同窓会として、以前からの懸案事項でもあり、期成同盟会の一端を担わせていただきましたので、完成の喜びも一入であります。厚くお礼申し上げます。

折しも、私が数年前から地元集落史の編纂委員として携わっておりますら、我が家から、大正七年鳥羽村汽車開通記念の絵葉書が数枚出てまいりまして、その中の一枚に鳥羽尋常高等小学校（現在の鳥羽小学校の前身）の全景写真がありました。現在では、その当時の同窓会員はおそらくご存命ではないと思いますが、これも何かの縁と思い掲載させていただきます。

終わりにりましたが、この度の会報発刊に当たり、ご寄稿をお願いいたしました方々には快くご協力いただき誠に有難うございました。また、会員の皆様方に、今後とも鳥羽小学校並びに同窓会の活動に何卒ご支援ご協力いただき

ますようお願い申し上げますと共に、会員の皆様方の今後益々の隆昌をお祈り申し上げご挨拶とさせていただきます。



鳥羽尋常高等小学校



ご挨拶

学校長 島 津 静 夫

鳥羽小学校同窓会員の皆様には
ますますご活躍のこととお喜び申
し上げます。日頃から本校の教育
活動に対しまして格別のご理解と
ご支援を賜っておりますこと心か
らお礼申し上げます。とりわけ今
年度は鳥羽小学校の耐震改修・改
築に際しまして多大なご厚志を賜
り、お陰様で立派に完成した新し
い校舎にふさわしい備品を整える
ことができました。本当にありが
とうございました。

今春三月、二十一名の児童が地
域や同窓生の皆様に支えられ、第
百十二回の卒業式を迎えられます
こと、誠におめでとうございます。
何十年もの間に多くの卒業生がこ
の母校から巣立って行かれました
が、今年度のように古い校舎から
新しい校舎への橋渡しの年に巡り
合わせることは偶然とはいえず
までも心に残る喜ばしい出来事だ
と思います。

私は昭和三十九年度の鳥羽小学
校卒業生です。そして、卒業から
四十五年ぶりに伝統ある母校の校

長として勤務させていただきな
がら早一年を迎えようとしていま
す。この一年はお世話になった
方々への感謝と同時に学校をお預
かりする重責に身の引き締まる思
いで日々を過ごさせていただきま
した。四月着任と同時に鉄筋校舎
の解体が始まりました。実はこの
校舎は私が鳥羽小学校を卒業した
一年後の昭和四十一年に建設され
た校舎なのです。私の記憶の中の
鳥羽小学校はコの字型の木造二階
建てなのですが、目の前でガラガ
ラと崩れていく様を見ているとや
はり一抹の寂しさがこみ上げてき
ました。これからこの校舎はここ
で過ごした人の思い出として残っ
ていくのだなあ・・・と。

このお正月に、ある同窓生の方
から「一月三日、学校開いてます
か」と尋ねられました。同級会を
開くことになり集合場所が鳥羽小
学校ということでした。三日の朝、
私は児童玄関を開け昭和六十一年
度の卒業生の皆さんを待ちまし
た。十二月末に完成したこのすば

らしい鳥羽小学校をひとりでも
多くの同窓生の皆さんに見てい
ただきたかったからです。二十
六人の同級生と恩師お二人をお
迎えし、学校を案内させていた
だきました。どなたの提案か、
「起立、おはようございます、着
席」、真新しい教室で朝の会が始
まりました。小学校時代にタイ
ムスリップした皆さんの表情を
教室の外から覗いながら、懐か
しい母校は常に皆さんの心の中
に「ふるさと」としていつまで
も生きていくのだと嬉しくなっ
てしまいました。

地元や近くにお住まいの皆様
方はもちろんのこと、遠くから
帰郷されました折りには母校に
気軽にお寄りください。かわい
い後輩や教職員一同心からお待



嫌な事も今は楽しい思い出

鳥 羽 庄 司

(昭和26年度卒)

まずは鳥羽小学校校舎の完成、
心からお祝い申しあげます。我々
の時代とは比較にはなりません

が、今の子供達は本当に幸せな学
校生活を送っていると思います。
それはさておき昔に思いを馳せ



ちしております。会員の皆様の
ますますのご健勝をお祈り申し
上げご挨拶いたします。

てみようと思います。

私が小学校に入學したのは、昭和二十一年四月。桜花舞い盛るなか、校門をくぐるとコの字型校舎があり正面に玄関、その左側に授業の終始を告げる鐘があり、小使いさんがその担当をしておられました。又、校庭の隅には二宮尊徳の石像がありました。我々生徒は講堂の窓側に肋木（ろくぼく）がありこの肋木に思い出が残っております。寒い日等は特によくやつたゲーム「おとしあい」であります。

下級生がこの肋木に上つて待ち、上級生が馬となつて下級生を乗せて早く落とした方が勝ちと言うゲームで壮絶な戦いをやったものです。鼻血を出すのは当たり前で馬に乗る一・二年生は恐ろしく、いやな思い出として残っております。

又、大変だった思い出の一つに稲子（イナゴ）とりがあります。布の袋に竹筒を付け稲子を捕つては入れ、布がいつぱいになるまで捕らされたのを思い出します。早朝から半日捕った記憶もあります。学校ではそれを集めて小使いさんが大釜で蒸し校庭にむしろを広げその上で乾燥させて学校は幾らかの足にしたのでしよう。全

校生徒が一斉にやる作業ですのでかなりの量であったと思います。とにかく終戦間も無しの時代ですから、食生活や健康管理の面から学校では食事時に粉末を湯でとかけたミルクが出ました。あまり味の良い物ではなかったように思いましたし、海人草による回虫駆除が度々おこなわれ廊下にはよく回虫が落ちていた記憶があります。又、DDTの散布消毒を女の子がされていて頭を真っ白にしていたのを覚えています。

物の無い時代でしたから通学はわら草履だったし雪が降れば被りござやマント、後に番傘が普及してきました。運動会は裸足で、後にスッポンたびを履く人が増えてきました。教室の暖房は薪ストーブで焚き付けの枯れ柴を各自輪番制で持つて行ったものです。弁当を暖める為にそのストーブに乗せてたり横に並べたりしました。暴れると弁当が滑り落ちてひっくり返つたりしました。ほとんどが日の丸弁当だったと思います。

楽しかった思い出もあります。娯楽の少なかつた時代であつたので講堂での映画は何よりの楽しみでありました。悪者をやつつける場面はみんなて手を叩いて喜んだし悲しい場面では皆泣いたりしま

した。村人達は素朴で純真だったのでしよう。窓からの風にスクリーンが揺れれば画面も共に揺れます。それでも文句一つ言わずに鑑賞しました。

思い出は尽きませんが苦しい思い出や嫌な事は今となれば懐かし



再会

竹内 収 平

（昭和37年度卒）

昨秋、二度と会えないと思つていた男女二名の級友と半世紀ぶりに再会し皆が涙した。戦後六十五年、この平和な世の中ではあり得ないことではあるが、現実にはそのようなことがあつたので感動が増したのだ。

この二人は大鳥羽出身の旧姓重光順子さんと奥田満夫君であり、鳥羽小学校を卒業し上中中学校で一年間学んだ後に転校したのだが、地元にいる者は誰もその後の消息を知らないと思ひ込んでいた。それが何と昨春の還暦伊勢参りがきっかけとなつて住所が判つ

い楽しい思い出に変わつています。

同級会をする度に六十年前に戻つて昔話を花を咲かせてくれる所。

ありがとう母校 ありがとう鳥羽小学校。 （大鳥羽在住）

たのである。

その順子さんについては、伊勢の宴席で岐阜県から久々に参加した旧姓鳥羽秀美さんから、「彼女とは文通を続けており、現在は東京で暮らしている」と聞いて一同は哑然とした。

また、奥田君であるが、当時、彼のお父さんが大鳥羽駅長であつたため駅の官舎に住んでいたのだ。しかし、彼も又その後の消息は不明であつた。それが、伊勢参りの後、地元組が五年・六年生の時の恩師高橋宗一先生を訪問した際、「奥田君は神奈川県に住んで

おり賀状が毎年来ている」とお聞きし思わず仰天。この悶々とした半世紀は何であつたのかと皆は反省しきりであつた。

そんなことから、麻生野の谷口富保君（同級会の終身会長）を中心とするこの地元組は「これまでの空白を埋めたい」という思いを実現するため歓迎会を企画した。

歓迎会は、この二人のほか、恩師や遠く岩手県に在住している三野出身の旧姓西川佳代子さんを招いて始まった。物故者への黙祷の後、各自の近況報告やカラオケ、ダンス、車座となつての深夜の会話など、風体は確実に老いてはいるものの気持ちはいつの間にか当時の丸坊主やお下げ髪。笑いあり涙ありの実に楽しいものとなつた。ちなみにその恩師は、「熱情と自由平等、公平無私、厳しい中にも親切」更には「不遇な子を大切にする」という教育信条を持ち続けられ、我々を指導して下さつたのである。その教えを素直に従いながら還暦まで生きてきた同級生の面々は当然ながら純粹で他人の気持ちがかかる者ばかりだ。

級友と再会し話をしていううちに小学校時代のことが鮮明に思い出された。私は海士坂で生まれたので二年生までは麻生野分校へ通

い、有田の故田中敦子先生に教わりながら複式学級の和氣藹々とした雰囲気の中で楽しい学校生活を送つたものだ。三年生になると本校へ通うこととなり、当初は児童の多さや遊びの凄さに驚き緊張しながら過ごしていたが、四年生ぐらいからは徐々に友達も増え学校へ行くのが実に楽しかった。この頃は、道路はジャリ道でホコリが舞い、制服はツギだらけで牛肉などは喰うたことがない時代であつたが、貧しい環境の中で助け合い競い合つて行つた遠足や臨海学校、運動会は今も脳裏にしっかりと残っている。

時の経つのは早いもので、この思い出多き母校へ孫が通うようになった。同じ校歌を孫と唄える喜びをしみじみ感じながら、通学児童の「見守り隊」として大鳥羽木工の辺りまで低学年の児童を迎えに行つたり、パソコンで「鳥羽っ子日記」を読んだりしている。

この孫も還暦を迎える頃には世の中が随分変わつていふことと思うが、私が経験した劇的な『再会』の感動をきつと理解してくれるだろう。

（持田在住・税理士）



ふるさとⅡ母

岡田厚子

（昭和38年度卒 旧姓 山崎）

鳥羽小学校を卒業して47年、「ふるさと」を離れて41年、月日のたつのは早いもので、還暦を迎えようとしています。

今回、会報誌掲載のお話を頂き、私にとつて「ふるさと」とはどんな場所かを考えるために、少し小学校の頃を振り返ってみました。

当時、私は大鳥羽に住み皆から「あつちゃん」と呼ばれ、仲の良かった「Mちゃん」といつも一緒に下校した。一番の思い出といえば登下校です。あの頃の冬は1m近く雪が積もり、テレビで放映されていた「快傑ゾロ」の様なマントを着て、雪の上を一直線に登校し、下校時には、雪の上に倒れこみ自分の身体の跡を残し遊んでいました。家の前には、父が作ってくれたスキー場（？）や、かまくらがあり、父の手作りの竹スキーで遊びました。父は頑固で口数が少なく当時はとても怖い存在でしたが、私達の為にいろいろとやってくれた事、今となってはとても懐かしく思います。

学校生活で印象に残っている事は、熱心な担任の先生のおかげでクラス全員がそろばん検定に挑戦できた事、鼓笛隊でベルリラの担当になりとても嬉しかった事です。

また音楽発表会で「ペルシャの市場にて」「剣の舞」を演奏した事は、今でもその曲を聴くと当時の思い出出します。母にピアノのレッスンにも通わせてもらい、音楽が大好きでした。

当時は兼業農家でしたので、父と母は農繁期になれば日中は田んぼの仕事、家に帰れば夜なべ仕事をしして私たちを育ててくれました。

そんな父は今年33回忌を迎え、そして母は87歳となり、上黒田で兄と二人で実家を守ってくれています。母はゲートボール、畑、花の世話、冬の間の外に出られない時には、編み物やミシンを踏み、とても元気に暮らしてくれています。耳が不自由になる前はカラオケも楽しんでいました。

私の娘の結婚が決まり、報告に訪ねた時には鯛と赤飯を用意して祝ってくれ、結婚式にも出席してくれました。いつも、家を留守にする事を嫌い、人に迷惑をかける事を嫌う母が思いついて出席する事を決断してくれた時は、本当に嬉しく思いました。その娘も、やはり音に触れている事が好きで、社会人になった今も市の楽団に所属しクラリネットを吹いています。

とを今改めて感じています。子供達が小さい頃は、自分の身体を休めに帰っていた「ふるさと」ですが、最近では私達が訪ね顔を見せると、とても喜んでくれる母の顔を見たくて、また老いていく母のいろんな話を聞きたくて「ふるさと」に帰っています。

上黒田に帰るたびに、山が崩され、田畑がなくなり、墓地までもが移動され景観が変わっていきませんが、私にとつての「ふるさと」は母が元気でいてくれる限り変わりません。
(愛知県 在住)



思い出と雑感

高橋 繁 応

(昭和42年度卒)

私の書棚に『すりばち』というタイトルの古びた卒業記念文集がある。ガリ版刷りの黄ばんだわら半紙を綴じた文集である。当時の同級生は28人だった。『すりばち』の名前の由来は鳥羽谷の地形である。当時の同級生はまとまりがよくて、今までも何度か同窓会を

してきた。その度に、小学校時代のなつかしい思い出話に花が咲く。

私たちが5年生の時に建った新校舎も老朽化して、昨年改築された。時の経つのは早いものである。家に帰るとカバンを玄関に投げ、夏はほとんど毎日川へ魚とり

に出かけ、冬は雪の中で鳥を追いかけた。山のなかに大人の人が仕掛けたくぐつとよばれる鳥を捕獲する罠を見様見真似で作って、実際に鳥が獲れたときの感動は忘れられない。学校での休み時間には昨日はどこで何を捕ったとかなんとかそんな話で盛り上がった。(鳥獣保護法違反だと思えますが、時効で許してください)くぐつの餌にと山にハゼの実を取りに行つてかぶれてしまい、ひどい顔をして登校したこともあった。生活科などという教科がなくても毎日が生活科のようだった。そんな自然の中での経験から私たちはたくさんのかことを学び、身につけていったのだと思う。

小学校時代にはそんなことばかりしていて、あまり勉強が好きでなかった自分が、学校で勉強を教える教師という職業について、昭和57年度から6年間鳥羽小学校に勤務させていただくことになった。いかげんな教師だった私の教え子達もそれぞれ立派に成長し、各所で活躍している。その中の一人が、神戸のホテルのレストランでシェフをしているという話を聞いていたので、旅のついでに訪ねて行つた。彼は久しぶりの再会をとっても喜んでくれ、歓迎して

くれた。夜の9時ごろに彼の仕事が終わってから、ホテルのラウンジにさそってくれて、六甲の夜景を見せてもらいながら、ワインをいただくことになった。彼も釣りが好きで毎日鳥羽川で釣りをしていた話を聞いて、そういえば鳥羽川で釣った大きなナマズを教室に持ってきて、水槽で飼っていたつけない、という話になった。ある日、算数の時間に私が一生懸命黒板に向かって説明していると、「あ、食った。」との大きな声。休み時間にカエルを捕ってきて、教室のナマズがいる水槽に入れていたのだが、授業中も算数はそつちのけで、水槽ばかり見ていたやつがいたよな、という思い出話がなつかしかった。

『人は自然の中でのびのびといろいろなことを経験しながら育てば、自ずと人間らしく育っていくのではないだろうか。』

理不尽な行動をとる人達の事件がたびたび報道されるのを聞く度にそんなことを思う。こう考えると鳥羽谷は子どもが健全に育つには本当にいい環境なのではないだろうか。

獣害防止柵で鳥羽谷一円が囲まれていくのを見ると、自然と人間が隔絶されるようで、一抹の

不安と寂しさを感じるが、イノシシやシカの被害を考えるとそれもしかたのないことなのだろう。しかし、昨年末鳥羽谷にやつてきて滞在しているコウノ

トリを見ていると、まだまだ、鳥羽谷には自然が残っているのかな、などと思う今日この頃である。
(海土坂在住)



鳥羽谷ブランド

島津 秀樹

(昭和46年度卒 旧姓 畠中)

今年は近年にない大雪になり、先日通学路をショートカットして田んぼの中を歩いている子供の姿を見かけました。〃今の子供も同じことするんやなあ〃と学校に通っていた頃のことを思い出していました。

須崎橋の下で隠れて、下校途中の女の子に雪だまを投げたりもしました。肥料袋やビニール風呂敷でそりすべり。かまくらや雪だるま作り、雪合戦。かまくらの中で飲み食いすることの楽しかったことや天井の部分が透けてきれいな青い色に見えたこと。雪が降るとわくわくしました。

雪は邪魔物であつても田畑や草花、生き物にとって欠かせないも

の。上手に付き合っていきたいです。温暖化の影響で雪が少なくなると子供の遊びも変わってしまう。雪が降れば、子供は自分で遊びを見つけることが出来ます。まだまだ自然が多く残っている鳥羽谷で、自然の中から遊びを見つけていることが出来る環境を少しでも長く残していつてあげたいものです。

この原稿を依頼されて〃はて、何を書こうかな?〃と考えたときに、ふと〃半世紀〃という言葉が思い浮かびました。私は生まれてから一度も鳥羽谷を離れたことがありません。51年も住んでいるのに、あえて鳥羽谷の自然や文化、環境、産業そしてここに住んでい

る人のことを考えたことのない自分に改めて気がつきました。住んでいること自体が当たり前になりすぎて、鳥羽谷から享けている季節の恵みも当たり前に受け取って、集落や地区の行事も当たり前にこなしていく自分がそこにいます。

私たちは鳥羽谷に育まれて一体化して生活しています。〃ありすぎや〃と言われる集落や地区の行事、あまり使われなくなってきた鳥羽弁。鳥羽谷の風土が創り出す鳥羽もんらしさ。それらすべてが鳥羽谷ブランドだと思います。

近年鳥羽谷も、少しずつ変わっ

てきました。

13集落になりました。高速道路が出来ました。保育所や学校が新しくなりました。農家が減ってきました。子供が減って高齢化が進んでいます。私も年をとりました。けど、何かやりたい。守りたい。

昨年末に鳥羽谷にコウノトリがやってきました。鳥羽谷もこれからどんどん変わっていくでしょうが、鳥羽っ子が鳥羽もんらしく巣立ってくれて、鳥羽谷ブランドを大切に守っていつてくれるように応援できることを探していきたいです。
(小原在住)



料理とドボン

森下 哲孝

(昭和58年度卒)

二宮金次郎の立つ小さな池で息を殺して水中を覗き込み、自作の針金で作った針に給食のパンを付けて、ドボンの鼻先に落とし込んでいく、相手は仕方ないから食べてやるといふ感じで、ゆっくり口を開けパンをくわえる。僕は小さ

な興奮を抑えて糸を引く。やる気のない顔からは想像出来ない引きで楽しむも、カエシも付いていないやわらかい釣り針はのびて返ってくる。ドボンは位置が決まっているかのように底へ帰り、僕はチャイムで教室へ帰る。常に釣

が頭の中にあつた少年だった。日曜日には、TVで釣り吉三平を見ては仕掛けを真似てみたり、秘密のポイントを探して一人でもよく川に向かった。自分だけのポイントを持つことがすごくうれしかった。今は珍しいカワセミも沢山飛んでいた。行けば絶対釣れるのがナマズで、とにかくよく釣った。

夏休みの自由研究でもナマズの釣れたポイントやその詳細を発表したり、教室でもナマズを飼わしてもらっていた。学級委員長になれば、行事は釣り大会にするなど話し出した。キリがない釣り好きだった。今、鳥羽小学校の思い出を書こうと記憶を辿るが、鮮明な記憶は遊びの部分だけのようだ。遊びは川だけでなく山中の基地作りもタフな遊びだった。立地条件と計画、皆との協調性が大事で完成しない場合も多々あったが、完成して皆で大鳥羽を見下ろし食べる弁当は格別だった。山に川、田んぼ、小学校に分校、寺や宮さん、それらが一枚の風景画のように自分の頭には残っていて、上手く言えないが都会の小学生には解らないだろう、住人までを含んだの一体感を感じる物語の中の一部のよな時間だった。少しオーバーに思われるかもしれないが大鳥羽を

出てから23年間でたつた今、小学校時代を思い返してみても素直に出た感想だ。

現在は、神戸の六甲山ホテルでコックをして働いている。料理人という職業についてたきつけは、高校を中退し、熊川のヌクイ釣具店で働こうと自転車に乗って面接に行き、「兄ちゃん自転車じゃむりやわ」と断られ、バイク代を稼ぐために若狭カントリーでボーイとして働き出し、調理場の洗い物を手伝った時につまみ食いをしてもらった鴨のローストに感動したからである。単純にうまい物が食えるということで料理人を目指し、今ではコックが天職だと信じ楽しく忙しい日々を過ごしている。

料理人をやっている鳥羽で成長していった少年時代の記憶は体と頭に自然と蓄積され、それが今は財産として残っている。鉄砲で撃たれた野鴨の野性味のある鉄分の多い味や、じいちゃんが小屋でしめたぶつ切りのニワトリの濃いスープの味、酸っぱく青くさいトマト、雪の中の甘いハクサイ、味だけでなく自然が作り出す四季折々の色やニオイなど、感受性を高める材料が鳥羽には多くあったと思う。

鳥羽を出てからの年数の方が長くなつた今、帰省すれば少しも変わっていない友達や周りの人達の温かさを感じ、またこの同窓会報の話を持ちかけてくださったことにも感謝し、自分はトバモンだとも実感している。4人の子供には、個性を活かして育てていつて欲しい願いがあるので僕の体験談が少しでも役に立てばうれしいし、田舎があることの幸せをいつか感じ



還れる場所

川 島 侑 実

(平成7年度卒 旧姓 長谷)

私は今愛知県に住んでいます。去年の始めに大学卒業後からお世話になつていた会社を辞め、その後留学、転職、結婚と、正月とお盆がいっぺんに来たような、大変

す。大学時代は部活でほとんど帰れなかった分、社会人になつてからは一時期ほぼ毎月帰省し、同僚にあきれたくらいです。

慌ただしい1年を過ごしました。そしてちょうど一息ついている時にこの同窓会報への寄稿のお話をいただき、改めて自分の原点を振り返るような気持ちです。

愛知の友人達には私が「実家好き」だと思われていますが、愛知にいて「そろそろ帰りたいなあ」と思う時、思い浮かぶのは家と鳥羽谷の風景です。鳥羽川を挟んで広がる田畑と集落の家々、山に挟まれ流れる緩やかな時間、草木や土の香り、音、そして気軽に声をかけてくれる鳥羽の温かい人たち

私に鳥羽小学校を卒業して、はや14年が経ちました。しかし忙しい日々の中にも時間を作っては、しよつちゅう一人で帰省していま

てくれればうれしい。最後に昭和58年度卒の自分の担任だった高橋先生がホテルに宿泊され、バーで昔話を肴に一杯やることが出来た。これも田舎の小さな小学校ならではの出来事だと思う。鳥羽谷の皆さん鳥羽小学校ありがとうございました。(神戸在住)

にそれらを思い出し、心身をリセットしようと、いそいそと帰り支度をする事になるわけです。

お盆と正月に帰省すると、ほぼ毎回長江の行事に出席します。墓参り、お寺詣り、お正月には年賀会……。外を歩けば知った人に出会い、「ゆきみちゃんかー！お帰りー！」と、快く迎えてくれるのが心地よくなりません。鳥羽を離れてから9年が経とうとしていますが、年々望郷の思いが増し、ふとした時に私が幼いころに見てきた情景がありありと浮かびあがることもあります。

さて、先日愛知と長崎出身の友人と話をしていた時のこと。鳥羽小学校にあった縦割班の制度を話したところ、大変驚かれ、また感心されました。各学年を縦でいくつかに割って班を作り、一年間はその班で、運動会だけでなく日々の給食、掃除と一緒に行ったものでした。それらを通して下級生は上級生に遊んでもらったり世話をしてもらったり、随所でいろんな事を教えてもらえます。自分達が大きくなってからは逆に下級生の面倒を見たり、6年生になると班の運営にも携わっていきます。縦割班活動を通して様々な活動をする
ことになり、人間関係も幅広くな

ると共に、責任感も育っていったように思います。

あれから教育制度に変化があり、今ではそういった活動に十分な時間を取るのには難しくなっているかもしれません。しかし、縦割班は子どもの成長を上手に手助けする、素敵な制度だったと思います。また、ランチルームという縦割活動に一役買った場所があったのも、1学年1クラスの、アットホームな学校だったからかもしれません。自分がそんな鳥羽小学校で学び、鳥羽谷の人や空気に育てられた事をとてもありがたく思っています。

この度鳥羽小学校が新しく建て直されるとのこと、もう思い出の教室はどこにもないのだと思うと少し寂しい気持ちになります。しかし人が成長し変わっていくように、小学校も、鳥羽谷もゆつくりと変わっていくのでしょうか。そうやって変わりつつも、風土が育てたよいところ、温かいところはいつまでも変わらないのであるだろう、またそうあって欲しいと願っています。帰り、自分に還れる場所があることは人生の財産の一つであり、今後も度々お世話になりたいと思います。(愛知県在住)



鳥羽のDNA

田 邊 美 貴
(平成10年度卒)

人生は、選択の連続です。25年間生きてきて、私も少ないながらも様々な選択をしてきました。入るクラブ、受験、就職、その場その場での行動はもちろん、食べ物や二度寝の格闘など、大きな選択もあれば、小さな選択もあります(一日どれくらいあるんやろう……)。

日々の中での選択にぶち当たったとき、私は自分の根にあるモットーを掘り出してきました。それは、『いくつかの選択肢で迷ったら、しんごい道を選べ。それは大抵、正解である』というもの。鳥羽小学校のときにこの思い・行動の基礎が作られ、上中中学校で明確になりました。

私は三田で生まれ、祖父母、父、母、姉、妹の7人家族です。父も母も働いていたので、小学生の時は、家に帰る時間に迎えてくれたのはいつも祖父祖母でした。そのため、私は「宿題をしてこなかった」ことが一度もなかったように思います。なぜなら、いつも祖父祖母から勉強を見られているような気が

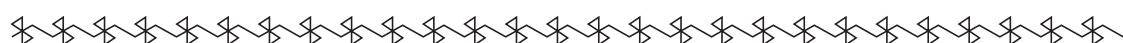
したから……。実際に問題を出してくれたり、習字を見てくれたりと熱心に勉強する私と関わってくれたので、勉強は好きだったし難しい問題などもとばさずに解ききることができました。(ありがとう！)

さらに大きく成長させてくれたのは、三田の人達から「褒めて」もらえたことです。学年が違う子供だけでなく、お年寄りとも気兼ねなく挨拶を交わしたり世間話をしたりできることは、本当に鳥羽の良いところです。「美貴ちゃん、頑張るとるらしいねえ」なんて言われたら、幼い心でも妄想は広がります。「なんで知つとんやろ」「家族が言うたんやろか」「それとも先生？」なんて。何気なく(何も知らず)言ってくれた言葉でも、「頑張ったね」と言われたら嬉しくてもっと頑張れる。そして、いっどこで誰に見られているのか分からないから、自分を正せる行動をとる。そして、褒めてもらえる。とても素敵なスパイラルだと思えます。

中学生になると、私はソフトボール部に入部しました。とても厳しく、とても熱いクラブでした。技術面もですが、いつも言われていたことは人間性を磨くこと。試合を見ている人全員が、私たちを応援したくなるようなチームになることが目標の一つでした。先生は弱い心に負けた瞬間を見逃しません。声がなかなか出せない時、トンボを相手に任せてしまった時、掃除を丁寧にしなかった時・・・その時言われていた言葉が、『しんどい道を選べ』。

この言葉が私の中にストンと落ちたのは、小学生のころから、自然としんどい道を選ぶということがどういふことか分かっていなかったと思います。体力・気力を使つて頑張ると、認めてもらえるということ。

選択で悩んだとき、みなさんはどんな基準で決めますか？好きなこと？損得？しんどい道？私は、『しんどい道を選べる』のは上中・鳥羽のDNAなんじゃないかなあと思っています。私は今、京都府の中学校でしんどい道を選ぶ人間を育成中です。上中・鳥羽のDNAをどんどん広めていきます！
(京都府在住)



学校の近況

【学年別児童数】

	男子	女子	計
1 年	8	9	17
2 年	15	13	28
3 年	10	8	18
4 年	8	7	15
5 年	12	11	23
6 年	11	10	21
計	64	58	122

【集落別児童数】

	男子	女子	計
大鳥羽	10	5	15
上黒田	4	3	7
麻生野	5	5	10
海土坂	3	1	4
三生野	2	3	5
無 悪	1	6	7
三 田	4	5	9
小 原	8	8	16
南	4	1	5
山 内	9	2	11
持 田	1	2	3
長 江	2	6	8
朝 霧	11	11	22
計	64	58	122

【平成22年度 教育目標】

めあてをもって、

心豊かにたくましく生きる鳥羽っ子の育成

- ・自分で考え、よりよい行動ができる子
- ・自他のいのちを大切にする子
- ・しっかり聞き、はっきりはなす子

【主な行事】

4月	入学式・始業式・身体計測・交通安全教室・学校経営総会
5月	春季遠足・内科検診・学力調査・PTA奉仕作業・鳥羽リニック
6月	避難訓練・プール清掃・ALT学校訪問・前期校内研究会・プール開き
7月	民生委員と語る会・教育懇談会・終業式
8月	PTA奉仕作業
9月	始業式・自由研究発表会・鳥羽地区体育大会・秋季遠足
10月	町小学校陸上記録会・敬老会・後期校内研究会・修学旅行・校内マラソン大会
11月	小中学校音楽発表会・特別懇談会・就学時健康診断
12月	人権集会・学校経営総会・子育て講演会・終業式
1月	始業式・学校給食週間・鳥羽っ子学習発表会・6年上中中体験入学
2月	1, 2年校外学習(そり)・スキー教室
3月	6年生を送る会・卒業証書授与式・修了式

平成21年度 鳥羽小学校同窓会決算書

＜収入の部＞

(単位：円)

	本年度予算額	決 算 額	比較増減	備 考
会 費	430,000	428,000	△2,000	1000円×428戸 (2戸減)
協力金	9,100	9,100	0	職員700円×13人
寄付金	0	0	0	
雑収入	896	81	△815	利子他
繰越金	37,004	37,004	0	
合 計	477,000	474,185	△2,815	

＜支出の部＞

(単位：円)

	本年度予算額	決 算 額	比較増減	備 考
会議費	25,000	21,400	△3,600	役員会、理事会、 編集委員会
事務費	40,000	38,671	△1,329	印刷インク・マスター 用紙等
事業費	400,000	374,900	△25,100	
会 報	130,000	106,540	△23,460	会報第19号、 郵送料
教育振興	270,000	268,360	△1,640	児童教育活動、 スキー教室補助
予備費	12,000	0	△12,000	
合 計	474,185	434,971	△42,029	

平成22年度 鳥羽小学校同窓会予算書

＜収入の部＞

(単位：円)

	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
会 費	430,000	428,000	△2,000	1,000円×428戸
協力金	9,100	9,100	0	職員700円×13人
寄付金	0	0	0	
雑収入	896	86	△810	利子他
繰越金	37,004	39,214	2,210	
合 計	477,000	476,400	△600	

＜支出の部＞

(単位：円)

	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
会議費	25,000	25,000	0	役員会、理事会、 編集委員会
事務費	40,000	40,000	0	印刷インク・マスター 用紙等
事業費	400,000	400,000	0	
会 報	130,000	130,000	0	会報第20号、 郵送料
教育振興	270,000	270,000	0	児童教育活動、 スキー教室補助
予備費	12,000	11,400	△600	
合 計	477,000	476,400	△600	

平成22年度 鳥羽小学校同窓会役員名簿

役員	集 落	氏 名	幹 事	山 内	宇 野	一 美
会 長	大鳥羽	松 宮 保 彦	"	上黒田	澤 本 啓 一	
副会長	三 田	岡 本 嘉 樹	"	三生野	畑 中 泰 信	
"	無 悪	竹 内 睦 子	"	大鳥羽	檜 鼻 幹 雄	
顧 問	三 田	池 上 矩 平	"	無 悪	福 谷 功	
"	長 江	清 水 治 一	"	長 江	小 川 倅 史	
"	三 田	小林 銀右エ門	"	南	東 弥千代	
"	無 悪	兼 松 勉	"	大鳥羽	檜 鼻 ふじよ	
"	三 田	福 谷 洋	監 事	麻生野	香 川 哲 夫	
"	学校長	島 津 静 夫	"	海士坂	竹 内 洋 子	
			事務局	教 頭	下 南 貢	

編集後記

昨年十二月三十一日に降り出した雪は一ヶ月ほば毎日のように降り、私たちの生活に大きな影響を与えました。私たちの母校も一面雪に覆われましたが、その雪の下で小学校の耐震改築・改修工事が施工され、すばらしい学校に生まれ変わりました。

さて、この度同窓会報第二十号を発刊することになり、同窓会有志の方々にお祈り申し上げます。

最後にこの会報が益々充実していきますよう今後ともエッセー等ご投稿を戴きますようお願い致しますとともに、会員皆様の益々のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。

(岡本記)

役員	集 落	氏 名	氏 名
理 事	大鳥羽	畠 中 秀 行	松 宮 美智子
"	上黒田	山 崎 智 子	澤 和 弘
"	麻生野	三 宅 清	三 宅 治 和
"	海士坂	竹 内 久 典	西 山 八 弘
"	三生野	吉 村 和 夫	西 川 正 展
"	無 悪	橋 本 良 幸	岡 野 京 一
"	三 田	田 邊 喜代志	池 上 正 行
"	小 原	田 辺 秀 昭	福 谷 明 夫
"	南	東 正 浩	若 新 康 彦
"	山 内	宇 野 高 男	宇 野 啓 子
"	長 江	瀬 間 達 雄	谷 口 文 代
"	持 田	大 下 宗 一郎	三 宅 照 彦
"	朝 霧	桧 鼻 壮 栄	鳥 羽 角 栄

鳥羽小学校校舎改築・体育館・特別教室棟改修工事の歩み



4月 校舎（裏側）解体始まる



4月 校舎の様子（正面側）



4月8日 校舎解体（正面側）



4月15日 更地



5月中旬 校舎の様子



6月 新校舎〔教室棟〕工事



4月 体育館改修始まる



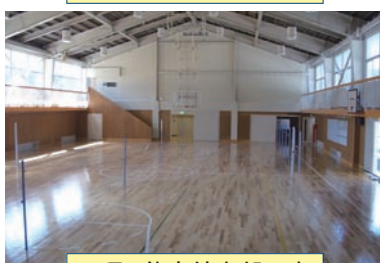
6月 体育館工事見学



体育館床工事



7月 体育館外壁工事



8月 体育館内部工事



7月・8月 特別教室リフレッシュ工事



9月下旬 教室棟（正面）



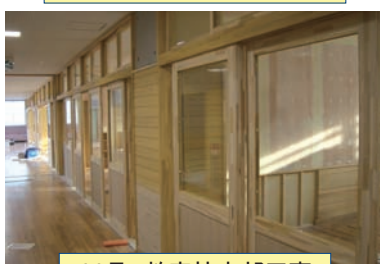
9月下旬 教室棟内部工事



10月 仮設校舎と校門



11月 教室棟工事



11月 教室棟内部工事



12月 特別教室棟・教室

鳥羽谷で育む、心豊かな鳥羽の子